

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

3 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 					
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果
1	確かな学力	援プランにもとづく教育実践	インクルーシブ教育システム構築という新たな教育課題を先取りし、平成16年度より、障害種別や学校種を超えた新たな特別支援学校の教育実践を推進してきた。地域の小・中学校と連携協働し、地域に支えられ・地域とともに・地域に発信する総合支援学校として学校運営協議会を設置し、地域・保護者が参画する学校経営を実現してきた。10年にわたる地域制総合制の実践を改めて検証し、次の10年に向けての課題と展望を明らかにする。	・個別の包括支援プランの更新状況	○参観日の保護者アンケートでも、概ね、「授業のねらいは明確である」、「適切な支援が行われている」という評価をいただいている。
		・「わかる、できる」授業の実践		・ユニット会議、研修会実施状況	○教職員・保護者アンケートより
		・キャリアアップ教育の推進		・「情報バンク」の作成状況	＜本校の強み＞ ・学校教育目標を意識した教育実践 ・児童生徒のよりよい変容
		・指導力の向上		・参観日の保護者アンケート	・生き生きと学習、活動 ・包括支援プランに願いの反映 ・目標を具体的に提示 ・取り組みやすい状況づくりや支援
		高等部教育課程の変更		・参観日の保護者アンケート ・教職員対象アンケート	＜本校の課題＞ ・研修参加など自己研鑽 ・環境に関する学習 ・専門職(ST等)の活用 ・包括支援プランの修正・更新
		・地域制総合支援学校4校による4校合同研究発表会の開催		・教職員対象アンケート ・歴代PTA会長対象アンケート	
		・芸術活動の充実	・地域作品展の開催 ・玄関ギャラリーの設置	・創作活動に関するユニット数、授業数 ・児童生徒の作品数	



自己評価	
評価日	平成27年10月21日
評価者・組織	経営者会議
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策
4校合同研究発表会の取組を通して、本校で継続的に取り組んできた実践を、「双方向の援助による新たな地域の創造」や「児童生徒は地域に生きる一人の生活者である」という観点で見直すことができた。 「できます会」を通して、子どもの課題が明確になり、より適切な支援・手だてが行われるようになり授業改善が図られた。これまでに以上に、できる子どもの姿が見受けられるようになってきた。 「情報バンク」に概ね全児童生徒のデータを入力できつつあり、児童生徒の育ちやこれまでの指導支援を踏まえた指導の充実やより有効な情報の伝達が期待できる。 各学部において、ケース会議やユニット会議が充実してきている。また、各教員の取組を学部においても実践発表する機会も設定された。 若手教員の割合が増える中、指導・支援や授業づくりに関して困っている教員が増えている。	「地域に生きる一人の生活者」として子どもを捉え、子どもの「生きる力」と保護者への生涯にわたる支援ツールとして個別の包括支援プランを中核に据えて取り組んでいる、地域資源を活用した本校の教育実践について、4校合同研究発表会の成果と課題を踏まえ、今後の実践を行っていく。 「情報バンク」に全児童生徒の全データを入力し終わり、情報バンクの授業場面や引継場面での具体的な活用法について、全教職員に提示する。 高等部の教育課程変更について、次年度に向けて、学部でさらに話し合いを深め、よりよい教育課程編成を目指す。 学校組織として、若手教員をサポートしていく必要がある。 個別の包括支援プランの更新については、これまでも取り組んできたが今後も継続的な取組が必要である。



学校関係者評価	
評価日	平成27年9月29日
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
	毎年、一人一人の児童生徒の状況に応じた丁寧な取組がさらに推進されていると感じる。 「できる」からスタートするキャリアアップ教育の取組について、「できます」シートの実施や「情報バンク」の取組等、具体的に組み込まれており、着実に成果を上げていると思う。 学校で学んでいることを地域で発揮・発表できる場の設定が必要だと思う。 ○「障害のある子どもが暮らしやすい」双方向の援助による新たな地域”とは？ ・向う三軒両隣、お互いのことを良く知っており、困ったときに助け合えるような地域。 ・居住地校交流ど、本人や保護者が希望すれば、活発に気持ちよく交流できる地域。

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

3 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 					
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果
2	豊かな心	・挨拶の励行	・生徒会を中心にした挨拶の励行	・挨拶の実施状況	・毎朝、生徒会の生徒が積極的に各学部の児童生徒に挨拶するなど、生徒会による挨拶励行は毎日実施されている。
		・対人関係、コミュニケーション指導の充実	・ケース会議の充実 ・言語聴覚士、心理士、情報教育専門家との相談	・言語聴覚士、心理士、情報教育専門家の活用状況	・今年度も緑のカーテンに取り組んだ。 ・春と秋に実施される桂坂統一クリーンデーの呼応清掃活動として、児童生徒による清掃、教職員による清掃に取り組んだ。 ・各学部の授業において、「お掃除ユニット」、「洗濯ユニット」、「リサイクルユニット」等を編成し、環境・衛生にかかわる内容の学習に取り組んでいる。
		・性教育の推進	・性教育の実施	・性教育の実施状況	
		・環境教育の推進	・緑のカーテン ・桂坂統一クリーンデー呼応清掃活動 ・ユニットにおける授業の充実 ・グラウンドの芝生の維持、管理 ・生徒による生け花を玄関に飾る	・緑のカーテンの取組状況 ・ユニットにおける「環境」に関する授業の実施状況 ・生徒による芝の手入れの取組状況	○教職員・保護者アンケートより ＜本校の強み＞ ・児童生徒のあいさつ ・コミュニケーション指導 ＜本校の課題＞ ・専門職(ST等)の活用 ・環境に関する学習 ・性に関する学習



自己評価	
評価日	平成27年10月21日
評価者・組織	経営者会議
分析 (成果と課題)	<p>自分なりに・自分の方法で・自分から挨拶できる児童生徒が増えている。 言語聴覚士や心理士・情報教育専門家の活用について、支援部を中心に充実し、授業改善が図られた。 性教育の実施について、さまざまな場面で相談されるようになってきた。 緑のカーテンの取組では、高等部生徒が役割を分担し、水やり等自主的に取り組むことができた。 冬芝のオーバーシードにおいては、高等部のワークスタディの生徒全員が「働く」学習として取り組んだ。また、毎週、火曜日に生徒による芝刈りに取り組むことができた。 各教室で分別ができるように各教室に必要なゴミ箱や袋を置き、ごみの分別に取り組んだ。 高等部のユニット学習において、生け花に取り組む、玄関に生け花を飾った。</p>
自己評価に対する改善策	<p>挨拶の励行は、個々の児童生徒に応じた挨拶の仕方を明確にし、教職員や保護者の共通理解を図りながら、言語指導・コミュニケーション指導を行う。 言語聴覚士とも連携し、積極的に推進していく。 「できます会」において、言語聴覚士の意見や助言も取り入れる等、発達の視点や専門的な視点を踏まえて実践を進める。 性教育については、全校体制で取り組み、性教育に関する各学部・学年ごとの年間指導計画を作成し、さらに充実を図る。 生け花の取組は一週間であったが、今後、もう少し長期的に取り組む。</p>



学校関係者評価	
評価日	平成27年9月29日
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者評価による意見	<p>学校へ訪問するたび、生徒さんが気持ちよく挨拶をしてくれる。 学校だよりなどを自治会に児童生徒が届けてくれている。それを見かけた近所の方も、「西総合支援学校の子どもさんはこんなことができるんだ」とおっしゃっていた。地域に総合支援学校の認められるこのような活動をもっとしてほしい。 学校がいつもきれいに整備されており、芝生グラウンドや緑のカーテン、簡易ミストなど、自然に優しい教育環境も整っている。</p> <p>・アルミ缶や古紙の回収など、総合支援学校の子どももどんどん出かけて行って、地域の人達とさらにかかわりを持ってはどうか？</p>

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年10月21日	評価日	平成27年9月29日
						評価者・組織	経営者会議	評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評 価による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援 策
3	健やかな体	・健康管理の徹底	・医療的ケア検討委員会の実施 ・登校時の消毒運動 ・スクールバス乗務員への研修実施 ・感染予防教室の新設	・医療的ケアの実施状況 ・登校時の消毒運動の実施状況 ・感染予防教室の利用状況	・医療的ケア検討委員会を随時、開催し、学校医や主治医の意見を参考にしながら、児童生徒の健康・安全管理に努めている。 ・スクールバス乗務員を対象に、障害理解、発作対応などの研修を実施。 ・訓練等実施状況 避難訓練 2回／年、緊急時シミュレーション 3回／年 防犯研修 1回／年、交通安全教室1回／年	⇒	健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 毎朝、生徒会の生徒が登校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んだ。 感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 今年度、快適トイレのストレッチャーを低床ベッドに変え、床でおむつ交換を行えるケアルームも新設した。 今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができた。 災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図った。 PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができた。	⇒	桂坂地域では、桂坂学区区民体育祭25周年記念前夜祭を実施する。16自治会の代表が聖火リレーをするので西総合支援学校の生徒にも聖火リレーランナーとして走ってほしい。 地域としても避難訓練を実施したり、物品を備蓄するなど、災害時に備えた対応に取り組んでいる。学校とも連携しながら取組を進めたい。 ・西京区の社会福祉協議会の災害ボランティアセンター設置訓練では、今年度、障害のあるご家族がいらっしゃるご家庭を訪問していただいて、災害について心配されていることや必要な援助について尋ねているとのこと。 ・ふれあいの里更生園や授産園・療護園は、福祉避難所に指定されている。また普段も、24時間体制で支援も行っている。職員さんの勤務のこともあり、どこまで対応できるかわからないが、24時間体制でサポートしている施設があるということもこの地域の強みではないか。
		・安全管理の徹底	・トイレに低床ベッドを設置 ・ケアルームの新設 ・スクールバス乗務員への研修実施	・低床ベッドの活用状況 ・ケアルームの活用状況 ・研修の実施状況					
		・体力の向上	・部活動 ・スポーツ大会への参加	・部活動の充実状況 ・スポーツ大会への参加状況					
		・自立活動の充実	・身体の学習	・身体の学習の実施状況					
		・防災、安全教育の推進	・避難訓練 ・緊急時シミュレーション ・防犯研修 ・交通安全教室	・避難訓練、緊急時対応訓練の実施状況					

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価 評価日 平成27年10月21日 評価者・組織 経営者会議		学校関係者評価 評価日 平成27年9月29日 評価者(いずれかに○) ○学校運営協議会 学校評議員	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価 による意見		
4	独自の取組	・学校運営協議会を年間4回開催し、保護者・地域・関係機関等の協力を得ながら、学校運営協議会主催事業として、「校区地域子交流会」、「芝生まつり」等、様々な取組を実践している。 ・学校施設の開放については、障害のある方の加盟されている団体を対象に、グラウンド・体育館・生活学習室を開放している。 ・育支援センターのこれまでの小中学校への支援内容は、主にアセスメント等の相談や情報提供にとどまっていた。今回の事業では、PT・ST等の専門家による小中学校へのサポート体制を充実し、小中学校在籍者へのより直接的で個別の指導・支援の実現をめざす。 ・特別支援学校のセンター機能充実事業	・学校運営協議会実施状況 ・学校運営協議会主催事業の実施状況 ・福祉施設等との連携状況 ・連絡帳記載事項や参観日の保護者アンケート ・タブレット型端末を活用した小中学校で専門家による直接支援の状況	・学校運営協議会主催事業として、下記の取組を実施している。 ・タブレット型端末を活用して、STによるアセスメント・支援を小学校教育成学級2校で実施。 ○教職員・保護者アンケートより ＜本校の強み＞ ・預り金の執行 ・事務関係書類の処理 ・教職員と保護者との連絡 ・保護者や地域への情報発信 ・教職員間の情報共有 ・学校予算 ・教職員の言葉遣いや態度 ・個人情報の管理 ＜本校の課題＞ ・学校運営協議会の取組内容の理解 ・PTA活動や地域活動への関わり ・育支援センターの取組内容の理解	学校運営協議会にて提案された「西の風」、「校区地域交流会」の開催や主催事業等、家庭・学校・地域の双方向の援助による取組が具体的にすすんおり、年々、充実してきている。 校区地域交流会においては、小中学校のPTA本部役員、学校運営協議会委員、育成学級の保護者、管理職も参加され、70名ほど参加される盛会となった。 本校の目指している「双方向の援助による新たな地域の創造」について、本校の児童生徒が「地域に生きる一人の生活者」として生き生きとより豊かに生活していける地域のあり方について、学校運営協議会で具体的に検討し、今後の取組の方向性を確認した。 タブレット型端末を活用した専門家による小中学校の支援では、従来の方法では十分でなかったSTによる直接的なアセスメントやリアルタイムでの助言が可能となり、より子どもに適した指導支援が可能となった。	学校運営協議会主催の取組や各学部・支援部の取組を関連付け、障害のある子どもを支えるネットワークを構築する。さらに、関係諸団体、各種団体の役員だけでなく、一般の地域住民も巻き込み、障害のある子どもが支えられる面として地域づくりを推進する。 小中学校への専門職による支援システムのあり方について、本校だけでなく、全市レベルで検討するための基礎資料を提供する。 個人情報の管理について心配されている保護者が増えている。今後、より一層、個人情報の取り扱い・管理に関して配慮する。 育支援センターや学校運営協議会の取組内容を教職員・保護者に周知していく。 三部連携や会議の計画的・効率的運用はできつつあるので、今後も継続していく。	各種団体では積極的に支援学校に協力してくださる方が増えてきている。一方で、地域の一般の方には十分伝わっていない部分がある。桂坂自治連合会の山の手倶楽部や女性会羽、中央信用金庫の2階で展示会などを開催する。西総合支援学校も作品展をすればどうか。 ○学校評価について ・学校評価の結果を教職員・保護者に見える形でどのようにいかしていくか？ ・アンケート項目の質問内容をもっと丁寧に説明した方が良い。 ・若手の先生方が増える中で、先輩教員に尋ねやすい環境をどのように整えるか？ ・学校運営協議会を1年に1回は放課後にして、他の教職員も参加できるようにしてはどうか。 ・どの取組が学校運営協議会の事業かがわからないのではないか。		

4 総括・次年度の課題

- ・個別の包括支援プランの更新・修正と、より質の高い情報を確実に「伝え・繋ぐ」ために「情報バンク」の取組を推進する
- ・教職員の専門性向上と若手教員への学校全体でのサポート。
- ・全校で「性に関する学習」に取り組んでいく
- ・今年度に発生した数件の事故の反省を十分にいかし、児童生徒の健康・安全を確保する。
- ・より一層、個人情報の取り扱い・管理に関して配慮する。
- ・育支援センターや学校運営協議会の取組内容を教職員・保護者に周知する。
- ・専門職(STなど)などを有効活用するため、特別非常勤講師の配置も含めて検討する。